

第39回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会会議録

- 1 会議名 第39回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会
- 2 開催日時 令和5年3月27日（月）午後1時30分から午後2時50分
- 3 開催場所 一関市役所特別会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 石川隆明委員長、菅原幹成副委員長、佐藤和浩委員、小野寺愛人委員、千葉光祉委員（小野寺正耕町民福祉課長補佐 代理出席）、千葉敏紀委員、岩淵嘉之委員（伊藤正幸総務課課長補佐 代理出席）、佐藤正幸委員、菅原彰委員、蜂谷敏志委員
 - (2) 事務局 吉田健総務管理課長、菊池弘施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事
一般財団法人日本環境衛生センター4名（以下、日環センター）
- 5 議 事
 - (1) （仮称）危険・有害ごみの収集について
 - (2) 古着の回収について
 - (3) 小型家電の回収について
- 6 公開、非公開の別 非公開
- 7 協議内容
 - (1) （仮称）危険・有害ごみの収集について
事務局 昨年11月1日の第34回委員会以降に引き続き検討することとしていた内容について、構成市町及び組合の担当者会議で検討した結果を報告させていただくので確認をお願いしたい。
（資料No.1により説明）
委員 二点教えてほしい。一つ目はスプレー缶についてガスを抜かずに排出してよいかどうか。もう一つは導入時期については早期を目指すとしているが、いつ頃を目指しているのか。来年度すぐにでも取り掛かるという考え方なのか。
事務局 スプレー缶は新施設ではガス抜きをせずに排出していただくことを想定している。ただし、現行の施設ではガス抜きのための設備がないため従来どおり住民側でガス抜きが必要である。具体的な導入時期については今回そこまでの検討に至っていない。導入時期は早期を目指して継続して検討して参りたい。
委員 国からの通知ではガスを抜かずに排出するのが望ましいとされている。せっかくこのようにするのであれば、設備の話はあるがガスは抜かずに排出する方向にしないと、国からの通知に沿っていないのは説明しにくいのではないかと思う。

事務局 新しい施設では国の通知の沿った形にすることにしているが、現施設での扱いについては現時点では検討に至ってない。国からは住民側でガス抜きをせずに排出するような体制を整備することという通知が出ているのはそのとおりであるので引き続き検討させていただきたい。

委員長 施設側で手選別が必要となるという説明があったが、手選別が一般的な仕分け方法なのか。機械化できない特別な理由などがあるのか。

事務局 特別な理由があるわけではないが、当該品目のような品目を選別する場合には機械選別ではなく手選別により選別されているのが一般的と思われる。

委員 計画収集する場合に収集車両は塵芥車以外とするとあった。現在は塵芥車で収集しているところがあるが、収集業者も計画的に車両を更新していくといった都合もあると思うので、方向性は早く示された方が良く思う。

事務局 4月以降に収集業者と話をする機会を持ちたいと考えていた。

(2) 古着の回収について

事務局 昨年8月29日の第32回委員会以降に引き続き検討することとしていた内容について、構成市町及び組合の担当者会議で検討した結果を報告させていただくので確認をお願いしたい。

(資料No.2により説明)

委員 用語の使い方だが、収集と回収の使い分けがあるのか。整理されているのであれば教えてほしい。それから3ページの事務局案については確かにそのとおりに思うが、案の3から案の5までである中でどれにするかによって収集業者側の車の配置などに大きく関わってくるので、慎重に進められたい。

事務局 回収と収集の用語の使い分けについては、配ったものや一度使ったものを集めるのは回収、そのような縛りがなく広く集めるのは収集といった使い分けになる。計画収集では様々なものを集めるため収集という用語を使用するが、それ以外は古着の回収という用語を使用することとしたい。

委員 事務局(案)はそのとおりと思うが、案の4のイベント回収(単発開催)について参考までにお話ししたい。イベント会場として多くの車が集まっているところにさらに車が集まることになる。先日イベント回収を実施したときに高齢の方の車が人に接触しそうになったこともあるので、なるべくスムーズな回収方法で展開していただければと思う。それから実施の時期について、こちらは早く実施して欲しいという思いであるが、早く実施する可能性はないか。

事務局 まず単発開催の話については、お話いただいたとおりに思う。そのほかにも、別のイベントと同時開催した場合には、駐車場とイベント会場が離れている場合

もあり、持ち運びが不便になるので負担をかけるのではないかという話もいただいている。イベント回収（単発開催）については、やり方の検討が必要と考える。最低限、巡回拠点回収を実施しつつ、イベント回収（単発開催）の良い方法を探っていくというスタンスと思う。導入時期については、清掃センターと協議になるが、令和5年度は一関市では予算計上して実施することになっていると思うので、令和6年度以降の実施に向けて、来年度の予算要求が始まる7月頃までには協議をしていくことで担当者間では話をしていたところである。

委員 これを早く実施すれば、新しい清掃センターで本当にストックヤードが必要かどうかという話になってくるかと思う。あればあるだけでよいかと思うが、そのように実際の施設での対応の仕方が変わってくるころがあると思うので、なるべく早く実施して検証してほしいと思う。

委員 平泉町ではどうか。

副委員長 平泉町では古着の回収は行っていない。町民の皆様から要望があればやっていると思うが、そういったものも特段ない。

委員長 現在は古着回収の機会がそれほど多くないため、ある程度意識のある人がきちんと洗濯したものを持ってきていると思うが、これがある程度一般化していくと、そうではないものも大分集まってくるのではないかという懸念もある。

委員 拠点回収を行ったときに不適物が混入するという懸念もあり、以前に拠点回収を検討したときには、市民センターや屋根があつて常時監視しているようなところで、夜には鍵がかけられるところでないといけないということがあり、イベント回収のみの実施となっていたという経過もある。

委員 イベント回収であれば人の目で確認できるので実施していた。

事務局 やはり拠点回収も何箇所も設けるとチェックが大変なところもあり、今回は清掃センターで、人目があるところで入れてもらうという形だけを想定していた。

委員 管内には古着の有価買い取りを行っているお店もある。そのようなお店と提携するということもあると思うが、そのような事例はあるのか。

委員 古着のリユースとしては、そのようなお店に売っていただくということは市でも推奨している。しかしそこでも引き取ってもらえないものがあるため、そういったものはリサイクルのために回収するといった仕組みと思う。

(3) 小型家電の回収について

事務局 検討委員会で意見を頂戴していた小型家電回収の見直しについて、構成市町及び組合の担当者会議で検討した結果を報告させていただくので確認をお願いしたい。

(資料No.3により説明)

委員 事務局案の中で、季節的な買い替えという表現があるが、どのようなイメージか。

事務局 引っ越しなどをイメージしていた。

委員 事務局(案)のとおりと思うが、これから対象品目を拡大していく場合に、現行で回収できていないものとしては補助資料の左下に記載されているような品目がある。これらは燃やせないごみとして排出されている。これが資源として回収されるということで非常に良いことだと思う。それと併せて現行の処理委託業者は100%リサイクルしているということである。もし回収するようになれば、今は最終処分場に搬入されているものも、それがなくなることになるので、そうすると最終処分場の延命にも繋がっていくと思う。

事務局 話のとおりのもあると思うが、今の処理フローでスクラップすればシュレックスチールなどとして一部は売却できているものを、あえて処理費用をかけて外部処理するという面もある。費用をかけないとなれば品目を絞るという方向になるかと思う。そのあたりの考え方を検討させていただきたいと思う。処理業者側で処理可能な品目は数多くあり、全品目とすると住民側で対象品目を判別するのが難しくなり、一覧表でお示ししても分からないといったトラブルの元になるという懸念もある。品目が多くなるほど、施設側での該当品目の確認にも手間がかかるといったこともある。

8 担当課 総務管理課